

被害者は 事件後さまざまなことを経験します

犯罪被害によって心に深い傷を負いながらも、被害者は事件の捜査に協力したり、裁判へ参加したり、事件に関するさまざまな手続きを行わなければなりません。落ちこんだ状態で、今まで経験したことのない複雑な手続きをしたり、多くの人に事件のことを話したりすることは被害者にとって大きな負担です。また、仕事や学校など日常生活でも、周囲の人に心ない言葉をかけられたり、自分のつらい状況を理解してもらえないなど、孤独感を感じることもあります。

被害者に「事件後にどのようなことが起きましたか」と聞きました。「友人や知り合いから無神経なはげましを受けた」、「家族がぎくしゃくした」など今までの人間関係が壊れてしまったり、「捜査のときに気配りのない対応をされた」、「自分の意志にかかわりなく、捜査や裁判がすすめられた」など捜査や裁判に関わるなかで傷つくことも多いようです。また、「心や体の不調や、裁判によって仕事を続けられなくなった」と事件によって就労に困ることもあります。

調査の結果からも、犯罪の被害にあった人やその家族が事件によって生活が変わってしまうことがわかります。



犯罪被害者等の状況

